

ADHDの子供たちに私たちができること

2025-1-14

3年5組4番 井上佳穂
3年3組28番 中島凜海

キーワード: 「子供」 「ADHD」

1 はじめに

私たちは【みんなでつくる笑顔のコミュニティ】というゼミに所属していた。その中で子供の笑顔を作るため何が必要か考えた。この探究を通して私たちはADHDという障がいを持つ子供とそうでない子供が理解し合える環境を作りたいと思った。ADHDについて探究しようと思ったきっかけはSNSの動画やコメントでは名前だけ知っているがどんな障がいなのかを知らない人が多く、心無い言葉を使っている人がいると思ったからだ。そのためにまずADHDをもつ子供がどのような子なのかを周りの人に理解してもらうことが必要で、それを伝えるためにも自分たちが理解することからはじめた。

2 序論

探究の目的：私たちの目的はADHDを持つ子供を周りに理解してもらうことだ。これは決して簡単なことではなく、そもそもADHDという障がいはそうでない人との違いがとても小さく、眼鏡をかけている子とかけていない子の違いと同じくらいである。しかし、周りの子供や大人はそのことに気づかず、聞き分けが悪い子、やる気がなくふざけている子などと勘違いしてしまい、当事者を傷つけてしまうような言葉を言うてしまうことが多々ある。私たちはこのようなことを少しでも減らすことを目指している。

探究方法：探究方法としては自分たちが子供の立場になっても理解出来るようにADHDについての絵本を読んだ。絵本の中身はとても簡潔で容易に理解でき、やはり私たちが知らない症状や深刻さが書かれていた。

3 本論

ADHDとは一言でいうと、自分をコントロールする力が弱く、それが行動面の問題となつてあられる障がいである。

具体的には注意力、集中力に欠けている注意欠陥、じっとしてられないことや、喋りすぎる多動性、だしぬけに何かをしてしまう衝動性の3つである。

ADHDの子が周りの人と上手く接していくには周りの人との協力や手助けが必要となってくる。

ADHDの子の特徴は主に以下のこの2つが挙げられる。

1つ目は人と話している時、授業中、グループワークの時に、言いたいことが浮かんだり、発言したいと思ったりしたときに、頭の中で言ってもいいか、今言うべきことなのかを考えることが重要である。そうすることで、その場にそぐわない内容や相手を不快にさせたり、傷つけたりする言動を防げる。

2つ目はADHDの方々には発想力、想像力が豊かな傾向がある。新しいものを企画する時に、斬新なアイデアや、私たちが思いつかないような企画案を出してくれるのでこれを強みとして社会に出ていくことができるだろう。

ADHDの子供たちの人へのアドバイスは、1人で抱え込まないこと。カウンセリング、と聞くと、メンタルの治療というイメージが強く、ためらう人が多いかもしれないが、実際に

ADHD当事者たちを対応してくれるカウンセラーに話を聞いてもらって、的確なアドバイスをもらったり、一緒に対策を考えたりしてくれる。

このような症状に対して周りは伝えたいことを砕いてわかりやすく説明することや、その子の弱みばかりみるのではなく、強みを見てあげることが必要である。

4 結論

ADHDの症状から周りの接し方などをまとめたスライドを作ってグローバル探究の授業中に発表した。発表後聞いてもらった人みんなに感想や疑問を書いてもらい、集めてデータとして残した。

結果は、30人中9割がADHDについてよく知れて良かった、や、軽はずみに言葉にしないようにする、などやはりADHDについてよく知らない人たちがばかりだということがわかった。一般的に、ADHDの有病率は小児5～6%程度、成人3～4%とみられている。日本人の成人のADHDは300万人以上とも言われている。小児のADHDは男児のほうが女児より多いのですが、成人では男女差はない。これほどの多くの人口にADHDがいるということは自分たちの周りや友達や自分自身がこれからADHDが発覚する可能性があるということである。つまり自分には関係がないと思っても将来的に関わらなければならない場合だってあるということである。その時に心無い言葉を言って相手を傷つけてしまったり、症状への理解に苦しみ、上手く関係を保てなかったりしてしまうことがないように、周りの人たちからADHDについてよく知ってもらいたいと思う。

5 おわりに

ADHDはSNSやテレビなどで自分が少し集中できない時に「自分ADHDだから笑」や「お前ADHDだろ！」などとネタでも軽はずみに使っていい言葉では無い。ADHDのクラスメイトや近所の人、部下などに何かを説明するとき、伝わりにくかったり少しでも共通点を感じることがあれば接し方などを変えたり、伝え方をその人にわかるようにする。

6 参考文献

タイトル :ADHD(注意欠陥多動性障害)のお友達

著者： 内山 登紀夫 監修
高山 恵子 編

出版年月日： 2019年07月30日